



さいたま 来ぶらり通信

さいたま市立図書館報

2011年7月15日発行



機材を操作しながら説明してくれる
パーソナリティの新井さん(中央)



FMで聴いてみよう さいたま市図書館

今年4月から毎週火曜日の午後6時過ぎ、コミュニティFM局のREDS WAVEでは市図書館員が電話出演し、本の紹介やお知らせをするコーナーが始まっています。

この番組「ライブニングパス」のパーソナリティ新井沙織さんがさいたま市図書館の利用者だったことから生まれたこのコーナー。「本が大好きで何回も通って

この4月から
REDS
WAVE
で放送中♪



放送室のなかでインタビュー

るのに、見過ごしていることが沢山ありました。図書館ごとに特色があり、本棚の雰囲気が違うので、そこに出会える本も違ってきます。パーソナリティになってからそれをリスナーにも知ってほしいと思いました」と話してくださいました。

そんな新井さんの弁舌は滑らかですが、図書館員がイベントや本について語る様子にはまだ余裕がありません。それでも、ラジオの向こうにいる一人ひとりのリスナーに図書館で本と出会う楽しさを知ってほしいという思いは同じです。

現在の放送区域は残念ながらまだ浦和エリアの一部のみ。市全域に電波が届くにはまだ時間がかかるようですが、インターネットのサイト(<http://redswave.com/>)からなら、全国どこからでも聴くことができます。このことです。カウンター越しに見る図書館員とは別の面を、ラジオから感じてみてください。

雑誌スポンサー事業をはじめました

雑誌スポンサー事業とは、地元の企業に雑誌の購入費用を負担してもらい、図書館では、その雑誌の最新号に企業のPRを表示したビニールカバーをかけるということです。埼玉県内では、さいたま市が一番早く始めました。

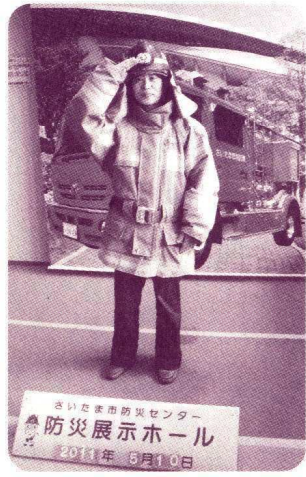
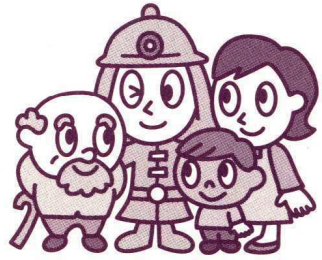


NPO法人地域活性化プラザと協力して、今年の1月から、サッポロビールとサイサンとの2社がスポンサーとなり、中央図書館でスタートしました。7月からは、西橋商事とデザンの2社がスポンサーとなつて、北図書館でも実施しています。現在のところ、4社であわせて35誌にわたる雑誌について購入費用を負担してもらっています。

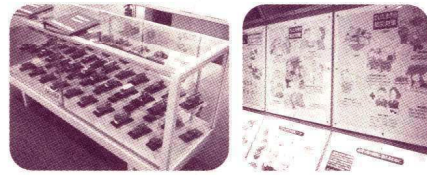
この事業により節約できた雑誌資料費は、他の図書館資料購入にあて、図書館資料の充実に努めています。

右) 煙体験コーナーにて。煙で何も見えず、ぼんやり見える誘導灯を頼りに出口に到着。誘導灯がなかったらどうなるのかと不安に。

左) 防火衣を着て記念撮影もできます。記者もポーズをキメてもらいました。



防災パネル
地震のしくみ、自主防災組織などが展示してあり、防火対策について学べます。世界の消防車ミニカーも展示しています。倒れて下敷きになりやすいブロック塀の安全対策についても紹介されています。



防火衣装着体験コーナー
本物の防火衣とヘルメットを着ることが出来ます。サイズは幼児、小学生、大人用があり、着てみると、意外と重くて暑いものでした。来館記念に写真を撮ることも出来ます。

煙体験コーナー
この部屋でパニックになる方もいるということで、煙の中で、誘導灯にそって進んでいくのはかなり大変でした。煙が充満している中、ドアを開けて進むのですが、煙でドアがほとんど見えません。狭くて暗く、さらに煙が充満しているため、出口に向かう間はとても息苦しく、出られたときはホッとしました。実際の煙だと、一呼吸するだけで倒れてしまうこともあると聞きました。必ず、濡らしたハンカチやタオル(濡らすことができれば乾いたままで)も、何もなくても肘で口をおおって煙を吸わないようにすることが大事だといわれています。

展示室
着衣着火を防ぐための**防災品**や様々な**消火器**など、家庭に備えるべきグッズが並んでいます。
見学後に印象に残ったことは、備えておけば少しは自分自身と大切な家族を守る事ができるかなということ。今後、危機意識を持って、とっさの時に行動が起これるようになりたいと切実に思いました。

『備えあれば憂いなし』ということで、災害に対する正しい知識を得ることも重要なポイント。そこで、図書館に所蔵している防災に関する資料から、最近に出版されたものを一部紹介します。

『防災・救急に役立つ日用品活用法&ロープワーク』(新版) 羽田道信著 風媒社 2011.4
『地震防災学 検索情報に基づいた地震防災の基礎知識』(大塚久哲編著 九州大学出版会 2011.3)
『みんなで知って助かる「助ける」視覚障害者のための防災対策マニュアル』(日本盲人社会福祉施設協議会情報サービス部会 2010.9)
『防災コミュニケーション 現場から考える安全安心な地域づくり』(中村八郎ほか著 自治体研究 2010.4)
『目からウロコの防災新常識 あなたと家族の命を守る』(山村武彦著 ぎょうせい 2010.2)

『災害がほんとうに襲った時 阪神淡路大震災50日間の記録』(中井久夫著 みすず書房 2011.4)
『災害時絶対に知っておくべき「お金」と「保険」の知識 被災しても、被災してなくても、知っておきたい基礎知識』(生活設計塾クルー編著 ダイヤモンド社 2011.4)
『生き延びるための非常食へ最強ガイド』(エクスナレッジ編集部編 エクスナレッジ 2011.4)
『地震から子どもを守る50の方法』(増補版 国崎信江著 フロンテス新社 2011.4)
『今から始める地震対策 家族・社員を守る50の知恵』(改訂版 平山隆一編著 並木書房 2011.4)



さいたま市防災センター防災展示ホール
〒330-0834さいたま市大宮区天沼町1-893 TEL.048(648)6511
開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 毎週月曜日、国民の祝日(日曜日に当たる日を除く)、年末年始(12月29日～1月3日)
*都合により変更になることもあります。
入館料 無料
駐車場 あり

わがまち はっけん Sai発

さいたま市防災センター

防災展示ホール

に行ってきました!

あの東日本大震災から4か月が過ぎました。みなさんのお宅では、防災や避難場所の確認など、自分自身と家族を守るために見直しや話し合いをされましたか。あの未曾有の経験をとおして自分の中の何が変わったかと思つた方も多いのではないのでしょうか。そこでさらに学ぶために、今号ではさいたま市防災センターにある防災展示ホールに行ってきました。

大宮駅東口からバスで約7分、自治医大医療センター入口「停留所」で降りると、大宮消防署に併設された防災センターが見えました。その一階に防災展示ホールがあります。当日は消防局予防部予防課島村さんと、防火対策推進課今井さんに、防災センターを案内していただきました。

防災センターは平成2年に、市民に対して火災予防の知識を周知し、防災意識を高める目的で建てられました。近隣の小学校や幼稚園の団体見学や、外から見学に来る団体も含めると、年間約1万5千人もの見学があるそうです。隣の消防署と合わせて見学すると、所要時間は約1時間から1時間半ほど。防災センターの南側には合併記念公園もあり、野外でのんびりくつろぐことも出来ます。

東日本大震災後には何か変化がありましたかと尋ねてみたところ、3月11日の震災後には臨時休館し、市消防局からは緊急消防援助隊として岩手県陸前高田市や福島県相馬市、福島市、本宮



消火体験コーナー
消火器で映像に映っている火を消すコーナーです。やはり消火にはコツがあるので、そのコツをつかむためにも挑戦してみましよう。ちなみに、記者は上手に消すことができず、「消火に失敗しました!」となってしまいました。次回は消火できるといいですね。

防災シアター
地震だけでなく火事や風水害など、幅広く災害に関するビデオを用意してあります。中にはアニメーションのビデオもあり、見たいビデオを選んで鑑賞することができます。小さい子でも楽しめます。(今年度リニューアルする予定です。)

市などに職員を延べ300人以上派遣し、さまざまな支援を行ったとのこと。5月1日には再び開館しましたが、着実に利用や問い合わせが増えており、やはり防災についての関心はかなり高まっているそうです。

それでは、館内にある9つのコーナーを体験してきましたので、順を追って紹介します。

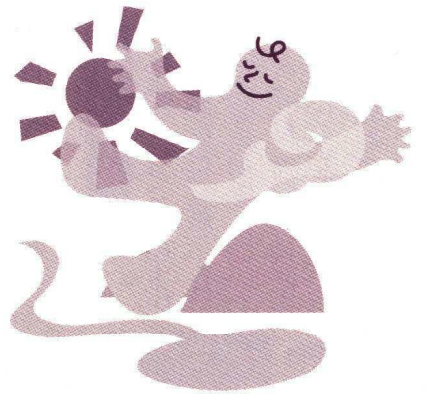
地震体験コーナー
震度2から震度7までの縦揺れや横揺れの地震を体験することができ、関東大震災や阪神・淡路大震災など、過去の大地震の揺れを再現することが出来ます。今回震度7の揺れを体験しましたが、その揺れは立っていらぬ、何かにつかまっけていてもひっくり返ってしまうような恐ろしさでした。あの3月11日に体験した地震も未経験の大きな揺れでしたが、それを遙かに凌ぐ揺れを体験することができました。

119番通報体験コーナー
火事や事故が発生したとき、どのような手順で行動すべきか、モニターを見ながらわかりやすく学ぶことが出来ます。

防災なんでもポケット
タッチパネル式の約15分のコンピュータ防災ゲームです。ゲーム感覚で問題を楽しく解きながら、防災の知識を確認しましょう。100点満点で何点取れるか、試してみてください。

本棚 ぶらり

いま、「エコ」を考える



福島第一原発の事故によりいまだ解決をみない電力事情。
エネルギーや環境について
私たちはいま、さしせまった課題として
考えるべき時を迎えています。
そこで今回は、「エコ」(エコロジー)をテーマに
本をご紹介します。

大江戸えころじー事情
石川英輔著 講談社 2000

先頃の計画停電で、真っ暗な夜を体験し、電気のない生活の不便さを改めて実感した人も多かったことでしょう。それでは、電気やガスのない昔は、どうやって暮らしていたのでしょうか？

自然エネルギーを最大限に活用していた江戸時代では、舗装されていない道路は、土の特性を生かした天然の空調機でしたし、植物から作られたゆかたは、手を加えることで、寝巻き・オムツ・雑巾・燃料と、捨てることなく転用されていました。排泄物でさえ、肥料というエネルギーとして、売り買ひされていたというから驚きです。

本書では、多数の図版を用い、合理的でムダのない江戸の超エコ生活を紹介します。質素な生活でも、結構楽しく暮らしていた江戸庶民の気質も垣間見え、面白く読めます。同時に、現代のエネルギー問題にも触れ、使い捨ての多い現在の私たちの生活が間違っていないかというところに気付いてほしいという、著者の強いメッセージが感じられます。



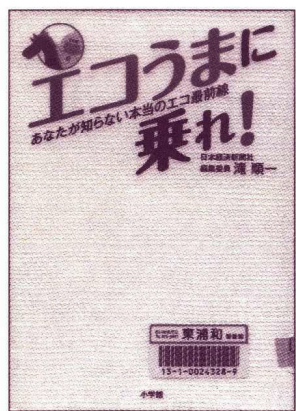
エコうまに乗れ！
あなたが知らない本当のエコ最前線
滝順一著 小学館 2009

電力不足、地球温暖化など、私たちのエネルギーの大量消費は見直しを迫られています。そのような中で環境に配慮した工夫をする必要があります。

この本には、石炭をガスにして燃やす火力発電など、「ピンチをチャンスに変える」技術者たちの挑戦的な取り組みが書かれています。中には、マラリア感染を防止するために、蚊帳に防虫剤を塗ったものを開発するなど、日本古来の知恵を応用したものもあります。

もちろん、これらの技術にも、コストなど検討すべき課題がまだ残されています。また、新技術の導入に慎重になってしまったり日本人の国民性もあります。しかし、電気製品に依存した生活を続けていくには、このような技術の更なる広がりが必要になってくるでしょう。

環境に配慮しながら経済発展も可能なヒントが詰まった興味深い一冊です。



育てておいしいはじめてのゴーヤー
十島やさい図鑑
八月社編 主婦の友インフォス情報社
2009

夏になると野菜売り場に並ぶゴーヤー。独特の苦味が魅力の野菜ですが、最近では食へる目的だけでなく、別の効果も期待して育てる方が増えています。

「緑のカーテン」をご存知でしょうか。家の軒先でアサガオを育てるなど、似たような光景は古くから見られましたが、電力消費を抑えつつ夏の暑さをしのぐ方法としていま注目されています。ゴーヤーやヘチマなど、生育旺盛なつる植物を育てて自然のカーテンを作り出すと、葉の間を抜ける風は涼しく心地良く感じられます。ここには日陰ができるからだけではなく、生きている植物ならではの、納得の理由が隠されています。

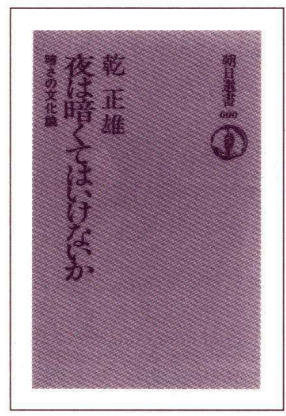
本書は、ゴーヤーの育て方や緑のカーテンのつくり方、美味しい食べ方、そして沖縄の島やさいの数々を紹介しています。暑い夏を快適に過ごすヒントが見つかる一冊です。



夜は暗くしてはいけないか
暗さの文化論
乾正雄著 朝日新聞社 1998

「明るい」という言葉は総じて良い意味に使われますが、「暗い」という言葉に良いイメージを持っている人は少ないのではないのでしょうか。しかし暗さは時に人を哲学的にし、人生を豊かにしてくれます。

そんな「暗さ」に注目して書かれたのが本書。ヨーロッパと日本の気候の比較、寺と教会の暗さの比較、谷崎潤一郎『陰翳礼讃』(谷崎潤一郎全集第20巻)中央公論社1982)や暗さが印象的に描かれているブリュッゲルの絵画の紹介などから、日本とヨーロッパの暗さの違いや特徴を考えます。また、意識的に暗い場所を作る不均一照明のすすめ、照明の歴史などを通して、明るくなりすぎた現代日本に疑問を投げかけるとともに、暗さの魅力を伝えてくれます。節電ですっかり世の中の明かりが減った今、本書を読んで暗さの価値を再発見してみたいかがでしょうか。「夜は暗くてもいい」と、明かりがない生活のことを見直せるかもしれません。



としかん
探偵事務所



エコマークって何？



4 エコマークは、「環境にやさしい」と認められる商品に付けられるマークのことで、「環境保全型商品の普及・啓発を図るため、環境庁の指導・助言の下、(財)日本環境協会において実施している事業」にもとづくものです。ドイツの環境ラベリング制度・ブルーエンジェルをモデルとして、1989年2月にスタートしました。『環境大事典』工業調査会1998)。

メーカーの申請で協会が認可する任意のマークであり、「認可の基準は、①製造・使用・廃棄」の段階で同じ分野のものより環境への影響が少ない商品②それを使うことで環境保全に貢献できる商品となっています。『マークを読む』JISからエコマークまで(中井有造著 日本放送出版協会2005)。

国際標準化機構(ISO)では、1998年に「環境ラベルの一般原則」を発行しました。日本のエコマークは、ドイツのブルーエンジェルや北欧のノルディックスワ

ンマークなどとともに、これに属しています。「現在、このような環境ラベル(第三者が審査判断するもの)は世界の20カ国を超える国々で運用されています。これらの環境ラベルへの認知や関心の高まりは、企業の戦略の上にも大きな影響を与えています。『世界のサインとマーク』村越愛策監修 世界文化社 2002)身の回りのエコマークの付いた商品に目を向け、そうした商品も積極的に購入することで、私たちが環境にやさしい暮らしを送るよう心がけたいものです。



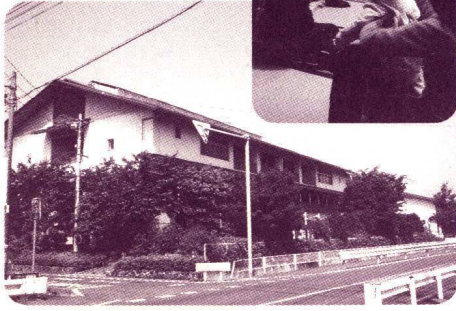
馬宮図書館

近くに荒川の土手があり、まわりは田圃、図書館の前の道路をはさんで向かい側には市指定有形文化財としても名高い永田家長屋門があったり、裏手にはかつての川越道が走っていたり：そんな、のどかな中にも歴史の厚みを感じる事ができるこの場所に馬宮図書館が開館したのは平成14年の7月のこと。以来、コンパクトな図書館ながら、西区のみなさんを中心にご利用いただいています。

利用者は、お子さんやそのご家族、そしてご年配の方が中心。これは、図書館が入っている馬宮コミュニティセンター内に、児童センターや老人福祉センター「馬宮荘」が併設されているためです。そこで図書館では、児童書、

赤ちゃん向けおはなし会
はいつも盛況

馬宮コミュニティ
センターは切妻造の
風格ある建物



高い天井が気持ちよい館内。職員が調べ物をしているところ。

手芸・料理、パソコン関連の実用書、大きな活字で年配の方にも読みやすい大活字本や、荒川土手のサイクリングコースを考慮してサイクリング関連の本などをそろえることで、利用者層や地区の特性に合わせた本のラインナップを目指しています。特に力を入れているのが「園芸コーナー」で、野菜や観葉植物などの育て方はもちろん、花の名所ガイドブックや草花の描き方の本など、植物に関する本をそろえています。

年間行事として、映画会、工作教室や折り紙教室、毎月のおはなし会「おはなしスクランブルンまみや」なども開催しています。

そんな馬宮図書館も、来年（平成24年）は開館10周年を迎える節目の年。これからも市民のみなさんに親しまれる図書館を目指します。

平成
23年度
の

古本バザール 開催日程

図書館友の会が主催し、毎年多くの方にご来場いただいている古本バザールですが、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故に伴う夏の電力供給の不足を考慮して、今年は多くの会場で日程が変更になります。日程は次のとおりです。ご確認のうえ、ぜひ足をお運びください。また、図書館主催の古本リサイクルの日程もあわせてご紹介します。

古本バザール

中央図書館	10月22日(土)
北浦和図書館	10月22・23日(土・日)
南浦和図書館	11月5・6日(土・日)
東浦和図書館	11月26・27日(土・日)
桜図書館	7月30・31日(土・日)
岩槻図書館	11月5・6日(土・日)

古本リサイクル

大宮図書館	10月29日(土)
春野図書館	10月15日(土)
片柳図書館	10月8日(土)

6月9日現在で決定している日程です。なお、電力事情などの状況によって変更になる場合がありますのでご了承ください。

編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館	832-2321	桜木図書館	649-5871	春野図書館	687-8301	与野南図書館	855-3735
南浦和図書館	862-8568	大宮西部図書館	664-4946	大宮東図書館	688-1434	岩槻図書館	757-2523
東浦和図書館	875-9977	三橋分館	625-4319	七里図書館	682-3248	岩槻駅東口図書館	758-3200
桜図書館	858-9090	北図書館	669-6111	片柳図書館	682-1222	岩槻東部図書館	756-6665
大久保東分館	853-7100	宮原図書館	662-5401	与野図書館	853-7816		
大宮図書館	643-3701	馬宮図書館	625-8831	西分館	854-8636		

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 3月11日の東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。今回ほど、図書館は何ができるのかを考えさせられたことはありません。これまで以上に、情報をお届けする重要性を認識しました。
次回発行：2011年11月15日（年3回発行）

